

都師会 会報 2021 年 12 月発行 25 号

Toshikai

本
気
に
な
れ
ば

世
界
は
変
わ
る
！



目次



1. 冒頭挨拶
2. 講習会報告と今後の御案内
3. 各事業部活動報告
4. 連載「黄帝内経」の謎を解く
5. ワクチン接種受付事業報告
6. 第 20 回東洋療法推進大会 in 大阪大会参加報告
7. 関東甲信越地区協議会参加報告
8. メーリングリスト作成のお願い
9. 都師会チャンネル開設！



1. 冒頭挨拶

本年度は事業局を再編成して、新しく立候補で決まった理事がそれぞれの局を担当して運営する体制を強化しました。上半期はコロナ禍のなかで思う様に活動が進まず、後半に巻き返したいと思っています。日本国内のコロナ感染がやや落ち着きを見せている状況で、「あはき」



の力で、都民の皆さまの健康増進を図り、いち早く日常を取り戻せる様に勤めていきたいと思っています。

東京都はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧師会

会長 森井 貴司

2. 講習会報告と今後の御案内

本年度もコロナウイルス拡散防止対策のため、WEB 配信方式中心の講習会開催となりました。

オンデマンドでも視聴できる講座もあります。詳しくはホームページをご覧ください。

- 9/05(日) 松本俊吾先生 ～杉山真伝流「坐骨神経痛の鍼術その1」
- 10/24(日) 金谷義孝先生 ～「初級者向け療養費講座」～
- 11/07(日) 賀偉先生 ～「コロナウイルスから身体を守るツボと経絡 中医鍼灸の威力」
- 11/14(日) 成田卓志先生他 ～スポーツ・災害ボランティアについて～〈実技実習 1/23(日)〉
- 11/27(土) 松田博公先生 ～松塾スペシャル「日本鍼灸の地図帳」
- 12/05(日) 鈴木幸次郎先生 ～「灸愛」各種灸法のすすめ
- 12/12(日) 岡野信久先生 ～「地域包括ケアシステム参入について」



[illegible]

＜今後の予定＞

- 1/30(日) 船水隆広先生 「TST てい鍼術 気を動かすというのは。産後の心のケアへの応用」
- 2/20(日) 石原克己先生+戸ヶ崎正男先生+松田博公先生 シンポジウム
- 3/06(日) 杉山勲先生 ～杉塾スペシャル「経絡治療実技」
- 3/20(日) 芦野純夫先生「鍼灸は医療か、医業類似行為か～鍼灸教育上の問題点、国家試験について、医療との関わり、19 条問題 など」

3. 各事業部活動報告

【保健局活動内容】

・保健請求の疑問質問や不明点の情報収集を行い、会員の皆様と情報共有できる体制作りを進めています。

【視覚障害局活動報告】

当会会員はじめ視覚障害のある方一般の皆さまに役立つリンクサイト集を作成中です。ご意見等ございましたら、事務局までお寄せ下さいませ。

【総務局活動報告】

メールリングリストを立ち上げました。会員の皆様に向けた情報発信は、会報、ホームページ、Facebook からお伝えして来ましたが、今後はメールリングリストを用いてタイムリーに行って参りたいと思います。

eメールを使い未だメールアドレスをお知らせ頂いていない方、事務局まで至急お名前などの記載で事務局宛にメールを送信してくださいませ。

【地域包括局活動報告】

地域包括ケアシステムに関する、基礎的な勉強会を行いました。動画を記録しましたので、後日ホームページにアップしますので、ご覧になって下さい。



【組織強化局活動報告】

入会案内パンフレットの新規作成

ペーパーからと web から入会できる様に、只今準備を進めています。

【スポーツ災害局活動報告】

・コロナ禍以前には様々に開催されていた各地のスポーツイベントは、コロナ禍が落ち着きを見せてきているものの、未だ多くは自粛中です。来年に入りましたら幾つかのイベント開催の情報が入ってきています。詳細がわかりましたら、逐次お知らせ致します。

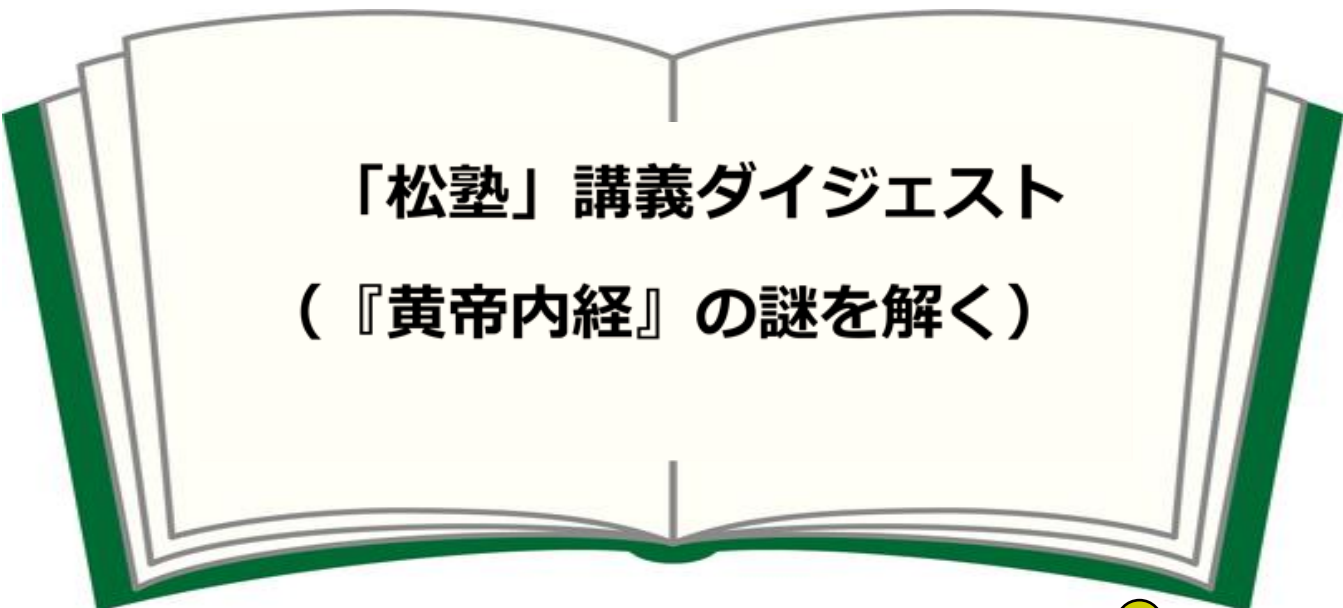
【学術局活動報告】

毎月の松塾・杉塾並びに東京都委託施術者講習会を実施致しました。

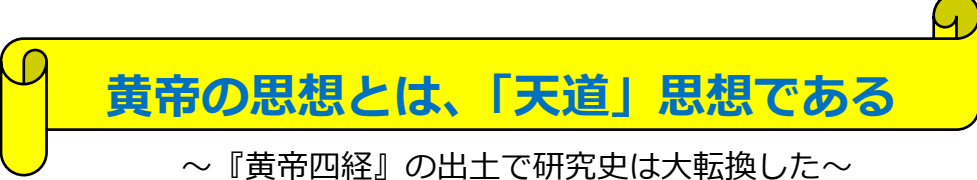
講習会内容の詳細は、別項をご覧くださいませ。



4. 連載「黄帝内経」の謎を解く (3)



「松塾」講義ダイジェスト (『黄帝内経』の謎を解く)



黄帝の思想とは、「天道」思想である

～『黄帝四経』の出土で研究史は大転換した～

松田 博公 (windhorse@nifty.com)

『黄帝内経』（『素問』『靈樞』を併せて便宜的にこう呼ぶ）は、「黄帝」をタイトルにしています。では、黄帝とは何者か。それを、中国や特に日本の『黄帝内経』研究は、深く考えてきませんでした。でも、黄帝がタイトルになっている理由が、単なる権威付けやお飾りでなく、ある思想を象徴するからだと分かれば、『黄帝内経』の内容は、読まなくても分かるはずです。松塾では、それを追究してきました。その一端をお示しするのが、この連載の目的です。

前回まで、黄帝は、清代以降の学者先生が言うような生身の帝王でもなければ、『素問』編者の王冰が考えたような仙人でもないというお話をしました。では、これまで誰も指摘してこなかった「第三の候補」は何か、それが今回の話題です。

「黄帝」担ぎ出しブーム

王冰は、自分が唱えた黄帝仙人説の根拠を前漢中期にまとめられた司馬遷の歴史書『史記』に求めました。漢代には、東海の齊・燕を拠点に、不老不死の方技を広める神仙道が流行し、黄帝を開祖とあがめていたので、『史記』には、黄帝仙人伝説が幾つも含まれていました。しかし、黄帝を尊び開祖とあおぐ思想集団は、神仙道だけではなかったのです。『史記』と同時代に淮南王劉安が編纂した政治書『淮南子』（紀元前122年ごろ）は、「今、自己の主張を売り出そうと

する者は、みんな神農、黄帝など古い時代の権威を借り、馬鹿な君主は騙される」と当時の「黄帝」担ぎ出しブームを皮肉っています。

世俗の人、多く古(いにし)えを尊びて今を賤(いや)む。故に道を爲す者は必ず之を神農、黄帝に託し、しかるのちに能く説を入る。乱世の暗主、其のよりて来る所を高遠なりとし、因りてこれを責ぶ。(『淮南子』脩務訓)

前漢末の紀元前8年ごろ、儒家の劉向(りゅうきょう)が宮廷書庫の文献リスト『七略』を作りました。それは、後漢に班固が編纂した歴史書『漢書』の芸文志という篇に引き継がれます。それを見ると、漢代の宮廷書庫には、「黄帝」を題名とする書物がたくさんあったことが分かります。一見、『淮南子』が茶化している現象を、裏付けるかのようです。

まず医書の項目に、「黄帝内経十八卷、外経三十九卷、扁鵲内経九卷、外経十二卷、白氏内経三十八卷、外経三十六卷、旁篇二十五卷、右医経七家二百一十六卷」と、歴史上初めて『黄帝内経』の名前が現れます。

『黄帝内経』以外にも、『黄帝四経』『黄帝銘』『黄帝君臣』『雑黄帝』『黄帝泰素』など「黄帝」を冠した書名が、二十七種もあります。ジャンルは、道家、陰陽家、兵家、天文家、暦譜家、雑占家、神仙家、房中家、医家など多く分野にまたがります。

この「黄帝書」リストは、『淮南子』がいうように、さまざまな思想・技術の潮流が、神話的なカリスマ権威にあやかる思惑で、黄帝をだしに使って書物を作ったことを意味するのでしょうか。じっさい、1970年代までの長い年月、『黄帝内経』に関しても、「黄帝」の題名自体は大した意味はないとする、カリスマ権威あやかり説がまかり通ってきました。

天の理法に従い政治を行えば国は栄える

しかし、1980年代に大きな転換が訪れます。これら「黄帝書」は、一つのカテゴリーでくれる共通の思想と方法に基づく書物だという見方への転換です。きっかけは、1973年、中国の揚子江に近い湖南省長沙の馬王堆漢墓から、『老子』書、医書、政治書などたくさんの書物が出土したことでした。

『老子』書の巻前に付された絹の書物(帛書)が、『漢書』芸文志に記載がある『黄帝四経』ではないか、と学者たちが言い出したのです。理由は、この書物が4冊あったこと、うち1冊は黄帝が主役の対話篇だったことです。4冊は、各書末尾の書名に従い、それぞれ『経法』『十大経(あるいは十六経)』『称』『道原』と命名されました。

この書物が『黄帝四経』であるという根拠は薄弱でしたが、それが刺激となり、1980年代になると、存在が知られつつも実態が不明であった「黄帝思想」および、それと老荘道家や儒家、墨家、法家など諸子百家の思想を折衷した「黄老思想」の研究が中国、台湾で一気に進展しました。日本で出版されている専門書は、中国、台湾のように多くはなく、浅野裕一氏の700頁を超える労作『黄老道の成立と展開』(創文社、1992)のみですが、中国、台湾の研究史をリードする優れた内容です。浅野氏は『経法』『十大経』『称』『道原』の4冊(紀元前250、260年頃

～、浅野説）を横断的に検討し、共通するテーマを分類して、「黄帝思想」の特徴を次のように描き出しています。

◎天道思想【天道の法則を地上の政治の基準とする】

「天(気)の精微なるを得て、地気の発するを待てば、すなわち萌え出ざるべきものは萌え出で、擎(けい＝持ち上げる)ものは持ち上がる。天に因(よ)るならばこれ成る。因らなければ成らず、(地が)養わなければ生ぜず」(『十大経』)

「天地には恒常(＝不変の規律性)あり」(『経法』)

「天を天とせざれば則ちその神を失い、地を地とせざれば則ちその根を失う。

四時(春夏秋冬)の度(＝規律)に順わざれば則ち民は疾(や)む」(『経法』)

「日は明をなし、月は晦をなす。昏くして休み、明るくして起く」(『祢』)

「天に順う者は昌(さか)え、天に逆らう者は亡ぶ。天道に逆らうことなければ、則ち守る所を失わず」(『十六経』)



◎天地人三才思想【宇宙の3層構造を政治の基準とする】

「天下に王たる者の道は、天あり、人あり、地あり。三者これを参(ま)じえ用いて、よく天下をもつ」(『経法』)

「王者は幸をもって国を治めず、国を治むるにもとより前道あり。上は天の時を知り、下は地の利を知り、中は人事を知る」(『十六経』)

◎循環の思想【天地の気は陰陽、四時の法則で循環する】

「四時に度あるは、天地の理(＝摂理)なり。日月星辰に数(＝法則性)あるは、天地の紀なり。…一は立て一は廢し、一は生じ一は殺し、四時代わる代わる正(しゅ)たりて(＝春夏秋冬、成長収蔵、季節ごとに主人公が入れ替わり)、終わって復た始まる(＝永劫に循環している)」(『経法』)

◎天譴(てんけん)思想【地上の政治が悪いと天は譴責を下す】

「凡そ禁を犯し、理を絶たば、天誅必ず至る」(『経法』)

「天には因(もと)より奪うあり予(あたう)るあり、祥あり不祥あり、天予うるも受けざれば、反りてもって殃(おう、＝災い)にあう」(『十大経』)

「天は寒暑を制し、地は高下を制し、人は取予(しゅよ、＝奪うと与える)を制す。取予当たれば(＝天の意思にかなっていれば)、立ちて[一字空白]王となる。取予当たらざれば、之を流して死亡せしむ。天に環形あり[天地の気は上下、四時の形で循環している]。反りて其の殃を受く」(『祢』)



これらを踏まえ、浅野氏は、『黄帝四経』には、日月星辰、陰陽四時の周期性を天の理法と捉え、この永遠の理法を規範に政事、人事を行えば国は栄え、そうしなければ亡びるとする「天道」思想が貫くとし、これこそ、「黄帝」思想の中核であるとしたのです。

ちなみに、『黄帝四経』のうち、黄帝が登場する対話篇『十大経』において、黄帝は、自分を「天道」思想を体現する者だと宣言します。日月の運行を観測して暦を作り、天地・男女・雄雌の陰陽を分けて世界を誕生させ、大いなる天の輝きに類するのは我であると語るのです。

「吾[＝黄帝]命を天より受け、位を地に定め、名を人に成す。唯余一人は、徳は乃ち天に配(なら)び、王、三公を立て、国を立て、君、三卿を置く。日を数え、月を暦(かぞ)えて、歳を計り、以て日月の行に当てる。允(まこと)に地は広裕なるも、吾は天の大明に類せん」(『十大経』立命)

「黄帝曰く、(中略)陰陽未だ定まらざれば、吾れ未だ以て名を有たず。今始めて判れて兩つと爲り、分れて陰陽と爲り、離れて四時と爲る。(中略)法を行い名に循いて牝牡を生ず。牝牡相い求め、剛と柔と会す。柔剛相い成り、牝牡若に形す。下は地に会し、上は天に会す」(『十大経』親篇)

「黄帝は答えた。(中略)世界は混沌としていて、陰と陽の区別がまだ定まっていなかったため、私はこれまで名前を付けることができなかった。今、天地は初めて分かれて二つとなり、陰と陽も分離し、春夏秋冬の区別も生じた。(中略)法則を施行し名分に基ついて牝牡の区別を生じさせた。雌と雄は互いに求め合って、剛と柔が集まった。剛と柔の区別が完成すると、雌と雄の区別も明瞭な形を取るようになった。下の方では地に集まり、上の方では天に集まった」(浅野氏の訳)

天の法則、地の法則に則り治療すべし

浅野氏は、『黄帝内経』には触れていませんが、戦国末の思想界に、「黄帝」を共通のシンボルとする多くの潮流が存在したことを論証してくれたことが重要です。浅野氏がいうように、『黄帝四経』が「天道」思想の書であり、「黄帝」の思想とは、天地の法則に従う「天道」思想であるなら、『漢書』芸文志の「黄帝」書には、ジャンルにかかわらず、すべて「天道」に則り人事を行うことが書かれていたと推測できるからです。

例えば、「陰陽兵家」に分類されている『黄帝』十六篇、図三卷や黄帝の臣下の名を取った『鬼容区』三篇、図一卷などは、天地の気の循環、四季の運動を見ながら戦闘を行う兵法学であり、「雑占家」の書とされる『黄帝長柳占夢』十一卷は、天地の気の法則である陰陽論、五行論を適用した夢占いであり、「房中家」の『黄帝三王養陽方』二十卷は、天地陰陽の気と一体になるセックス養生の書であると推測できるのです。

同様に、われわれの関心の的である『黄帝内経』十八卷、『外経』三十九卷は、天の法則、地の法則に則り医療を行う天人合一の医書だということになります。読まなくても、「黄帝」のタイトルから内容を推し量れるのです。まさしく、『黄帝内経』を引き継ぐとされる現存の『黄帝内経素問』『黄帝内経靈樞』には、全篇にわたり、「天道」の法則に則り治療を行うべしという原則が繰り返し強調されています。

「活するに天の紀に法らず、地の理を用いざれば災害至る」(『素問』陰陽応象大論)



※紀、理＝法則、基準

「人と天地相参じ、日月と相応じる也」(『靈枢』歳露論)

「それ、人は地に生まれ、命を天に懸(か)く。天地氣を合する、これを命(なづけ)て人という。人よく四時に応ずる者は、天地これが父母となる」(『素問』宝命全形論)

「天は陽たり、地は陰たり、日は陽たり、月は陰たり、大小月三百六十日一歳を成し、人亦之に応ず」(『素問』陰陽離合論)

「人の天道に合するや、内に五蔵有り、以つて五音、五色、五時、五味、五位に応ずるなり。外に六府有り、以つて六律に応じ、六律は陰陽諸經を建てて之を十二月、十二辰、十二節、十二經水、十二時、十二經脉に合する者なり。此れ五蔵六府の天道に応ずるゆえなり」(『靈枢』經別)

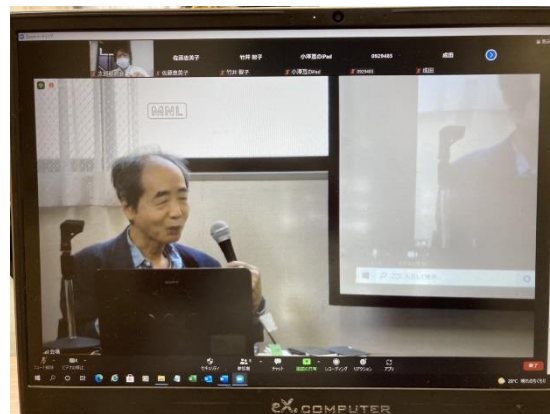
これらの文章は、『黄帝内経』という医書が、「天道」に則り治療を行う宇宙論的医学の書であることを物語っています。タイトルに「黄帝」の名を冠するのは、古代神話のカリスマ帝王にあやかりたいからではなく、この医書の内容を一言に凝縮するにふさわしい象徴だったからに違いありません。
(～続く～)

◎都師会常設講座「松塾」「杉塾」報告 (令和3年7月～令和3年12月)◎

松塾 講師・松田博公(当会学術顧問)

月例会・第1土曜日午前10時～12時 都師会会館

- 7月3日「天の思想史(1)」夏・殷・周の天の思想
- 8月7日「天の思想史(2)」孔子の天の思想(1)
- 9月4日「天の思想史(3)」孔子の天の思想(2)
- 10月2日「天の思想史(4)」墨子の天の思想(1)
- 11月6日「天の思想史(5)」墨子の天の思想(2)
- 12月4日「天の思想史(6)」孟子の天の思想(1)



杉塾 講師・杉山勲(当会学術顧問)

月例会・第1日曜日午前10時～午後5時 港区三田・東京都障害者福祉会館

- 7月4日 実技実習
- 8月8日 実技実習
- 9月5日 実技実習
- 10月3日 実技実習
- 11月7日 実技実習
- 12月5日 実技実習





5. コロナワクチン「あはき師」 優先接種業務のご報告



今回のワクチン優先接種は私達「業界」と「都行政」が協力し、都内で活動する「あはき師」を対象に進めました。6/2（水）の都議会定例会で小池都知事から警察官・消防士を対象に行われるワクチン集団接種にあはき師、柔整師、獣医師を加えるとの表明があり、6/9(水)に福祉保健局感染症対策部ワクチン担当課と具体的な対応方針を打合せ、大会並びに公益社団法人東京都鍼灸師会、一般社団法人全国鍼灸マッサージ協会が、あはき師優先接種の受付窓口業務に当たることになりました。接種対象を各会員以外の都内「あはき師」の方々にも広げる事とし、6/10（木）から募集を開始しました。

従来業務のキャパをはるかに超える受付窓口作業を行うにあたり、都からはタイトな日程が提示され、割当期間変更や会場変更(代々木公園会場から都庁第 1 庁舎南展望室)での混乱のなか、担当理事・事務局の尽力のもと対応致しましたが、会員の皆様方におかれましては、ご不便ご心配など多々ありました事を改めてお詫び申し上げます。



1 次募集 6/23(水)～築地市場跡地会場+都庁第 1 庁舎南展望室会場、2 次募集 7/1(木)～都庁第 1 庁舎南展望室会場、3 次募集 7/26(月)～都内 5 か所に会場拡大で実施されました。大会受付窓口では約 2800 人の申込がありました。今回の受付窓口業務を受けるに先立ち現時点で就業している「あはき師」の人数を把握するため都内保健所に提出されている施術所開設届数から概算した結果、約 2 万人が施術所登録、1 万 3000 人が訪問施術で登録、合わせて 3 万 3000 人となりました。窓口業務に携わった他の 2 団体受付分を加味してみれば、都内在勤在住「あはき師」の 1 割程度が今回の優先接種に参加できたものと推察いたします。



ワクチン接種の可否、コロナウイルス感染対策法については、様々な考え方、意見があります。特に私達「あはき師」の場合は、自らの信条や業務内容に直結しています。ワクチン接種の判断は各個人が決める事です。しかし来院される方々からの声への配慮や職場に依ってはワクチン接種の有無で制限を受ける事も予想されるなど、難しい判断が迫られたことでしょう。そのような中で今回の優先接種実現は、私達「あはき師」に対して医療介護分野で日常生活に必要な職種(エッセンシャルワーカー)としての永年の実績と期待の表れであると受け止め、業界団体として対応するべきだと判断致しました。



世の中にはたくさんの団体があります。目的やその由来の違いは様々。学術研鑽を目的とする学会研究団体、療養費保険請求代行を中心に収益を上げる為の団体、出身学校のコミュニティ的団体、職業環境整備を図る活動を行う団体、等など。当会は、公益法人認定法という法律により定められた公益事業を行う団体です。「公益事業」＝「不特定かつ多数の者の利益の為の事業」であり、自法人の利益追求だけでなく、社会全体に有益な事業を行うのが公益社団法人です。私達は「はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧業」を通して「公衆衛生の向上」を目的として公益活動を行っています。そのために行政とのパイプ役として職業環境を整備し「あはき業活動」全体が安定するように努めております。皆等しく「あはき業」を営むために、この整備された環境の上に立ち、そこで学術を磨き、社会に奉仕し、収益アップするなど、各自が思い思いの活動をしているのが理想の形だと思います。ワクチン接種には学閥流派はもちろん関係なく、

たとえ商売的に競合関係にあっても等しく情報を伝える事が大切であり、

それを行う事は正に公益団体の使命であると思います。



【築地大規模接種会場風景 その1】 ゲリラ豪雨が止み、会場に到着。工事現場の鉄壁に囲われた築地市場跡地の中へ。接種会場入口の受付ゲート。隣は消防士さんだった。



<ワクチン窓口こぼれ話>

●受付窓口業務でメールや電話の対応を行う中で、皆さんの切実さが伝わってきました。会員の方から「接種日程決定通知が遅くて困っている。会員外を入れて対応数が増えてるからだよ!!」というお叱りと、会員外の方からは「会員では無いのに大変お世話になり感謝しています」、23 時過ぎの電話に出たら「ダメ元で電話を掛けたら繋がって驚いている。遅くまでお疲れ様です。」とか、「会場を勝手に代々木公園から都庁に変えるな! こっちにも都合があるんだ!! (心の中では都庁からの指示なんだけど…と思いながらもお話聴きました(涙)」とか。みんなコロナで仕事と思うようにいかず、ワクチン接種で少しでも早く苦境から脱出したいという想いの現れだったと思います。



●ピーク時には朝 8 時 30 分から夜 7 時頃まで鳴りっぱなしの電話に出て、数十件のメールに返信する。朝 6 時に事務所に行き夜中の 0 時過ぎに帰る。自分の施術業務の合間に駆けつける。事務局と担当理事はじめお手伝いで参加して下さった理事さん、会員のみなさん、志の高い仲間の努力と協力のおかげで約 3 か月を乗り越える事ができました。差し入れアリガトウございました(^_^)v

●今回のメール配信で、都師会の情報伝達体制の IT 化が少し進みました。また会員外の方々との接点がありました。個人情報の取り扱い方に配慮しながら、今後もこの繋がりを活かしていく方法を考えたいと思います。公益法人が「あはき業」を営む基盤を支えており、その活動を応援する事で自分達の業を支えている事を伝えられれば嬉しいです。



【築地大規模接種会場風景 その2】 受付ゲートを過ぎると目の前に多数のプレハブ棟と数十台の観光バスが停まっていた。これより先は撮影不可とのこと。プレハブの中で接種が行われ、接種後に観光バスの中で経過観察のため待機。



6. 第 20 回東洋療法推進大会 in 大阪大会 参加報告

新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、オンライン開催（会員はオンデマンド配信あり）

での参加となりました。

大会テーマ 「心も体も健康に！伝える鍼灸マッサージのココロとチカラ」

開催日程 令和3年10月17日(日)10時～16時40分

会 場 オンライン配信

【スケジュール】

1. 開会式



2. 分科会（3会場同時）

A：保険委員会「令和4年度料金改定は、こうなる！」（仮題）

B：スポーツ災害委員会「コロナ禍における鍼灸マッサージ師の役割」

C：視覚障害委員会「視覚障害鍼灸マッサージ師の現状と課題」

3. 特別講演・粕谷大智先生「腰痛の新しい概念とその治療の実際」



4. 分科会（3会場同時）

A：介護委員会「地域包括ケアにおける鍼灸マッサージ師の役割」

B：法制委員会「広告ガイドライン発出後のあはき業界の展望」

C：学術委員会「症例報告～臨床研究発表」



5. 閉会式



7. 関東甲信越地区協議会参加報告

第 73 回全日本鍼灸マッサージ師会関東甲越地区協議会 参加報告

新型コロナウイルス感染症拡大の状況により web 配信のみでの開催となりました。

大会テーマ 「翔んで埼玉 DX&リアル」

開催日時 令和 3 年 10 月 31 日(日) 13:00～15:15

開催形式 web 配信

【スケジュール】

1 特別講演

「21 世紀の医療は、手技療法（三療）の時代に
一病気保障から健康保障への転換」

明治国際医療大学 学長 矢野忠先生

2 グループセッション「コロナ禍でも強い治療院とは？」

3 各県師会からの報告 他



公益社団法人 全日本鍼灸マッサージ師会
第73回 関東甲越地区協議会
オンライン開催 埼玉県大会
～ 翔んで埼玉 DX&リアル ～
開催日 令和3年10月31日(日)
13:00～15:15
形式 WEB配信(ZOOM)
参加費 2,000円(協議会参加費)
定員 WEB参加90名まで(参加者多数の場合は抽選)
申込期限 8月末までに *詳しくは開催要項をご覧ください。
特別講演
21世紀の医療は、手技療法(三療)の時代に
一病気保障から健康保障への転換—
講師: 矢野 忠 先生
明治国際医療大学 学長
主催[連絡先]
公益社団法人 埼玉県鍼灸マッサージ師会
〒360-0012 埼玉県熊谷市上之 1777-4
TEL 048-525-3222



8. メーリングリスト作成のお願い

至急

メールアドレス教えて頂けますか m(u_u)m

災害対応や、行政からの情報を速やかに会員の皆様にお伝えする為にメール連絡体制を立ち上げました。**メールアドレスご登録がお済でない方、至急**ご対応お願い致します。

今まで無かったのが不思議！今どき IT でしょ！！とお叱りを頂きながら、会員の皆さまにお願いです・m(u_u)m

なお皆様からお預かりした情報は、厳重に管理し、当会からの連絡での使用に限らせて頂きます。

メール連絡に使用する PC またはスマホから

件名に「メール連絡用」

本文に「氏名と市区町名」を記入にて

都師会 toshikai8811@ybb.ne.jp 宛に

メールを送信して下さい。



9. 都師会チャンネル開設！

前号でもお知らせさせていただきました

youtube での都師会チャンネルはもう

ご覧いただけましたでしょうか？

各種講習会の様子などをアップしており

ますので、ぜひご覧ください！





公益社団法人 東京都はりきゅうあん摩マッサージ指圧師会 会報 26 号

令和 3 年 12 月 発行者 森井貴司

公益社団法人 東京都はりきゅうあん摩マッサージ指圧師会広報局

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 37-4

TEL 03-3252-8811 FAX 03-3252-8813

